

市内公共施設・公共事業における 業者選定と現状について

橋本 祐一(令和研究会)



- 問** 各種公共事業における業者選定のプロセスについては、市民からも透明性、公正性の確保が強く求められており、公平性のある業者選定制度の確立は不可欠である。市内業者の積極的活用を通じた地域経済の活性化や市内業者インフラ整備により災害時における対応力の強化も重要である。公共施設の建設についての選定方法は。
- 答** 地域経済の活性化の観点から市内業者が入札に優先的に参加できるよう配慮し、市内業者の受注機会の確保を図っている。
- 問** 市営住宅のプロパンガス供給業者が市外の供給会社に移行していた例があるようだが、市での業者管理方法の改善の必要性の考えは。
- 答** 現在では、業者が供給を終了する場合には、事前に市に連絡しなければならぬなど市と業者間でのルールを定めている。市営住宅に入居する市民への供給であることから公正公平な業者選定が行えるよう十分検討していく。

しのぶ池水辺再生事業 ／水城公園整備事業

岩崎 彰(蒼倫維新)



- 問** 行田市実施計画において3力年事業として令和8年度予算にしのぶ池水辺再生事業を計画しているが、事業はどのような内容か。
- 答** 池の水質改善を目的に、池の水を抜き、底にたまつた泥やごみを取り除き天日に干す「かいぼり」を計画し必要経費約6千万円を見込む。
- 問** 財源確保の一つとして、池の水を全部抜くという企画をテレビ局に持ち込む検討はできないか。
- 答** テレビ局と連携した「かいぼり」は、費用面、また市民の皆様に水城公園をより身近に感じていただける等の観点からも大変有効であると認識している。昨年度からテレビ局に働きかけをしている。
- 問** 水城公園東側の樹木が伐採されたことから木陰がほしいと市民の方からの声を聞くが今後植樹の計画はあるか。
- 答** 専門家の意見を聞き、計画的かつ効果的に実施したい。
- 〔その他の主な質問〕**
- 本市のふるさと納税の現状と今後の取組について

子ども食堂の支援の充実を

梁瀬 里司(令和研究会)



- 問** 現状として、市内子ども食堂の団体数、食事提供数等、はどのくらいか。
- 答** 令和6年度末で8団体、うち7団体が月1回、1団体が週3回の食事の提供、全体では1万1809食である。
- 問** 市の補助制度で、今年度から新規設立事業として、子どもの居場所の空白地域に最初に設置する団体に最大45万円の補助ということで、2番目では補助対象にならないとのことだが、新規設立であれば補助すべきではないか。
- 答** 今後の整備状況や利用状況を確認しながら、必要に応じて検討していきたい。
- 問** 多世代型子ども食堂事業の補助(月1万5千円)について、食事の提供が月1回でも、月10回でも同額だが、補助は適正か。
- 答** 今後の整備状況や利用状況を踏まえ検討する必要はあると考えている。
- 〔その他の主な質問〕**
- 公共施設の火災対策
 - JR行田駅前広場の活用
 - 甲斐姫によるまちおこし